

[008]障害史研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7420027>

出版情報：障害史研究. 8, 2026-03-30. Society for Disability History Studies (Shōgaishi Kenkyūkai)

バージョン：

権利関係：



編集後記

本誌も8号刊行となった。前号に続き、論文の掲載には至らなかったが、研究ノート4本、書評1本を得たうえ、2件の研究会記録を載せ、多彩な内容となったことを喜ぶたい。

末森論考は室町後期の京都在医者の日記『盲聾記』を素材に、筆者が関心を持ち続ける障害語彙史に資するのを試みる。末森書評も自身が考察を重ねる聴覚障害を軸に、幕末の儒者・谷三山をめぐる書籍書評から、障害史の方法論に至る考察を提示。高野論考は近世中期の知識人の一人として著名な貝原益軒の著作類を対象に、筆者が取り組んできた障害認識を探る作業である。瀧澤論考は近代衛生学が「社会医学」の性格を帯びる過程で、筆者の追跡テーマの一つである健康、疾病、障害の位置づけを考察する前編にあたる。赤司論考は監獄の内部において精神に異状がある者をめぐる検討で、近代監獄史に関心持ってきた筆者ならではの内容といえよう。

このように各筆者がそれぞれの立場で追いつけている障害の歴史研究の一端を、本号でも知見提示できた。

2件の研究会記録は、1件が精神医療に長い歴史を持つ病院の巡検報告である山本論考、もう1件が同じく近世から近代にかけ精神障害者と地域の関係を追う中村論考および精神障害に関する史料調査・研究報告とその史跡巡見を総括する瀧澤論考からなるが、研究会報告を原稿化した赤司論考も含め、いずれも精神障害を対象とし、期せずしてテーマ特集の観もある。

本誌は、特定の障害種別へ集中する検証よりも、広く障害（者）と歴史の関係をめぐる思考を主眼にするものの、様々な心身の不全とともに生きてきた人々に対する障害種別特有の事象のなかでの考察は、結果、障害（者）を広範な歴史的文脈にて見つめることにもつながろう。

「あすなる」ともいえるかかる本誌の意図も斟酌しつつ、今号も味読願いたい。（の）

障害史研究・第8号 2026年3月30日発行

編集・発行 障害史研究会

(代表者・高野信治 [九州大学名誉教授、同大学大学文書館協力研究員])

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学大学文書館気付

印刷 城島印刷

The Journal of Disability History Studies (Shōgaishi Kenkyū) Vol.8

Published in March 2026

Edited by the Society for Disability History Studies (Shōgaishi Kenkyūkai)

Office: Kyushu University Archives

6-10-1, Hakozaki, Higasi-ku, Fukuoka, 812-8581, Japan

E-mail: takano.nobuharu@gmail.com